

相談支援活動の報告

(平成22年度)

平成23年10月14日

三条市地域自立支援協議会連絡調整会議

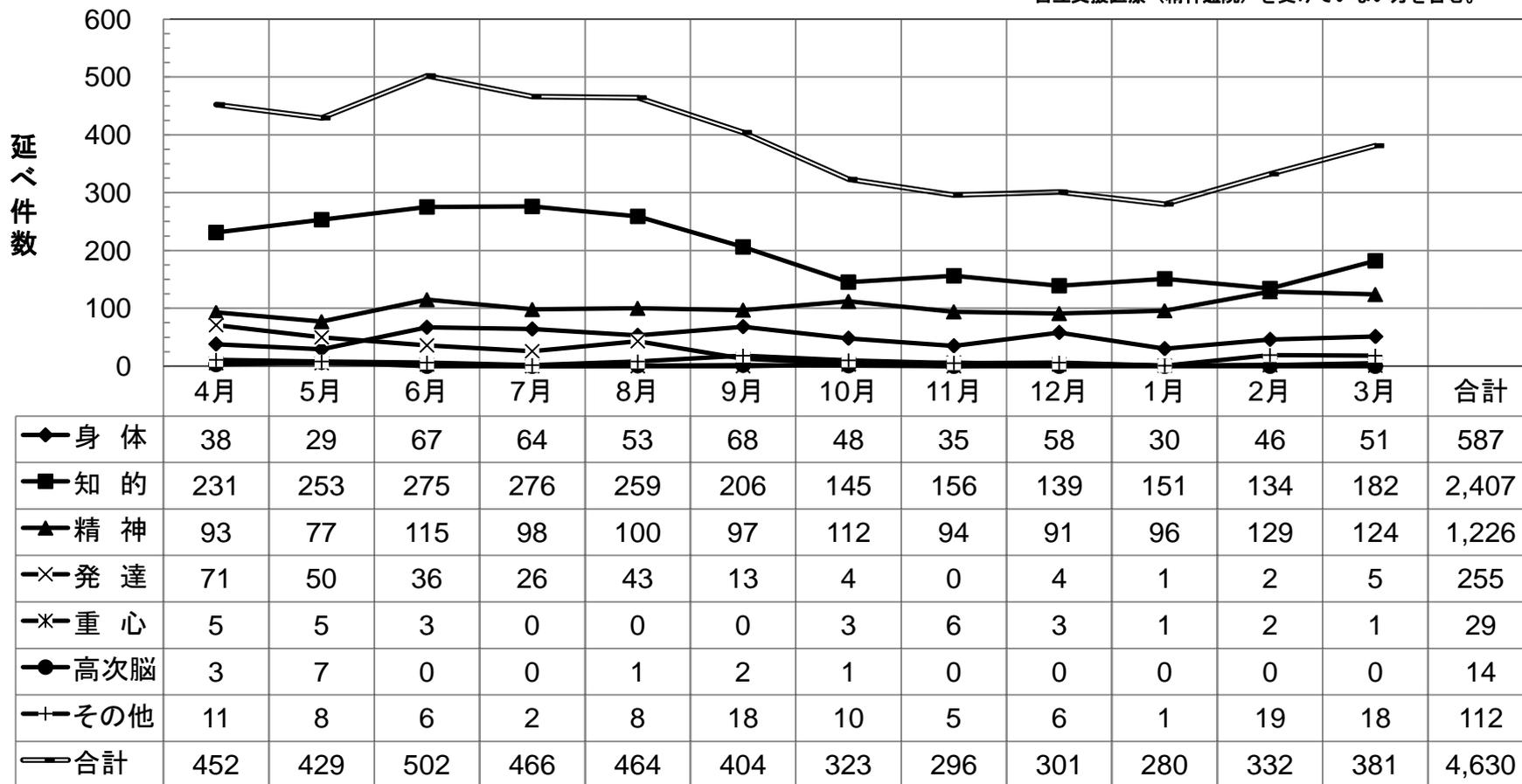
目 次

1	相談件数の推移	1 P
2	相談件数の比較	2 P
3	相談内容の傾向	3 P
4	相談内容集計表	4 P
5	月平均相談回数	6 P
6	月平均相談実人数	6 P
7	相談対応の実績	7 P
8	相談対応の比較	8 P

1 相談件数の推移

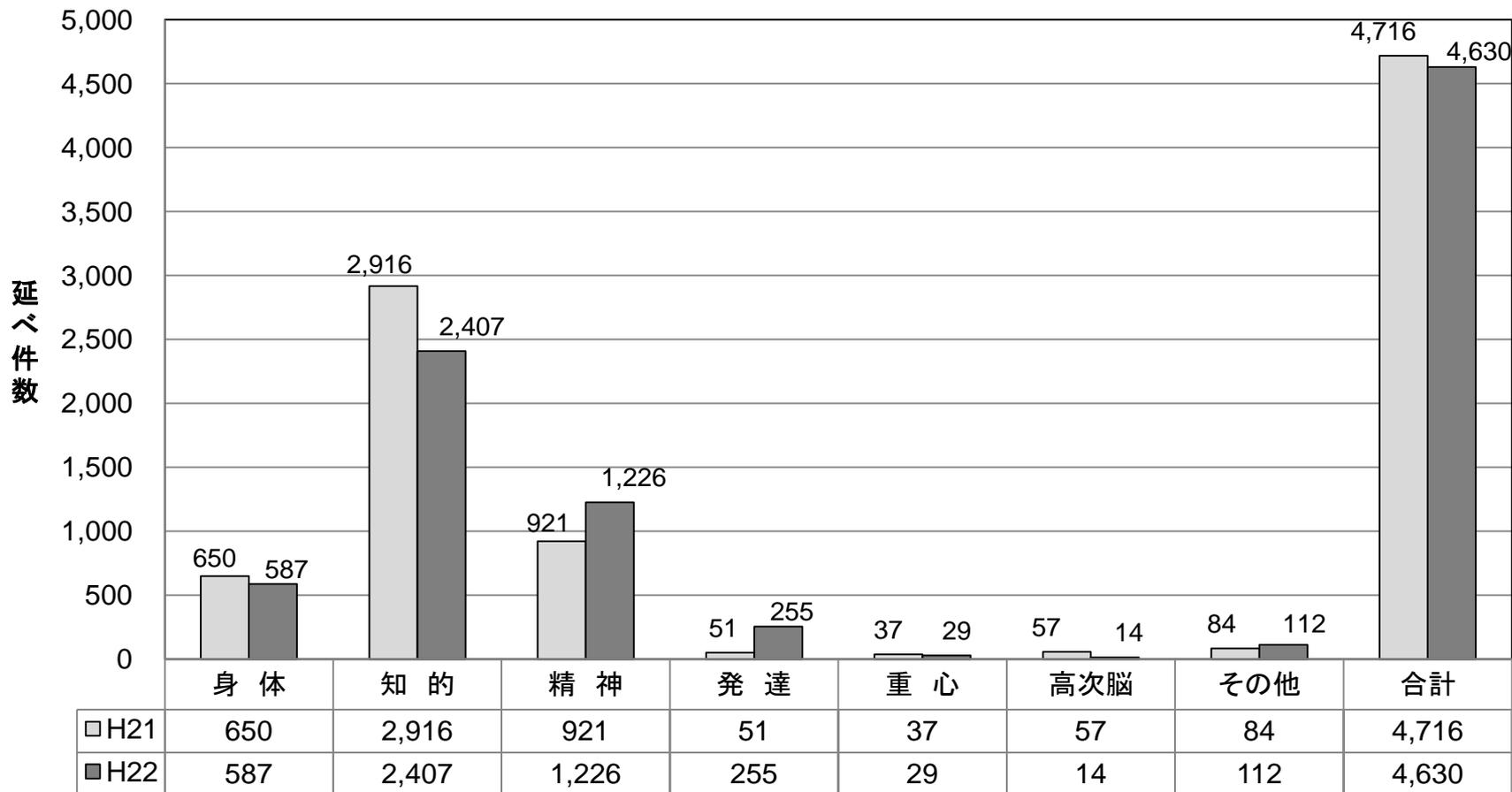
- 相談件数は知的障がい、精神障がい、身体障がいの順に多い傾向にあります。
- 相談件数の最も多い知的障がいは、全体の約52%を占めています。
- 発達障がい、重症心身障がい、高次脳機能障がい、その他※は全体の約9%で相談件数は少ない傾向にあります。

※「その他」とは、障がい手帳をお持ちでないや自立支援医療（精神通院）を受けていない方を含む。



2 相談件数の比較

- 相談件数を比較すると、昨年度に比べ、精神障がい、発達障がいが増加しています。
- 相談件数が最も伸びている発達障がいは、前年の約5倍となります。



3 相談内容の傾向

- 身体障がい 障がい福祉サービスの利用に関する相談が多い傾向にあります。次いで、社会活動・余暇活動に関する相談が続きます。
- 知的障がい 障がい福祉サービスの利用に関する相談が多く、全体の約44%を占めています。次いで、健康・医療に関する相談が続きます。
- 精神障がい 障がい福祉サービスの利用・不安解消・情緒不安定に関する相談が多い傾向にあります。次いで、健康・医療に関する相談が続きます。
- 発達障がい 健康・医療や不安の解消・情緒不安定に関する相談が多い傾向にあります。次いで、家計・経済に関する相談が続きます。

※重症心身障がい、高次脳機能障がい、その他は、障がい福祉サービスの利用に関する相談が多い傾向にあります。

※その他は障がいや病状の理解・就労に関する支援が多い傾向にあります。

各障がい別・内容別の相談件数については、4～5ページに掲載しています。

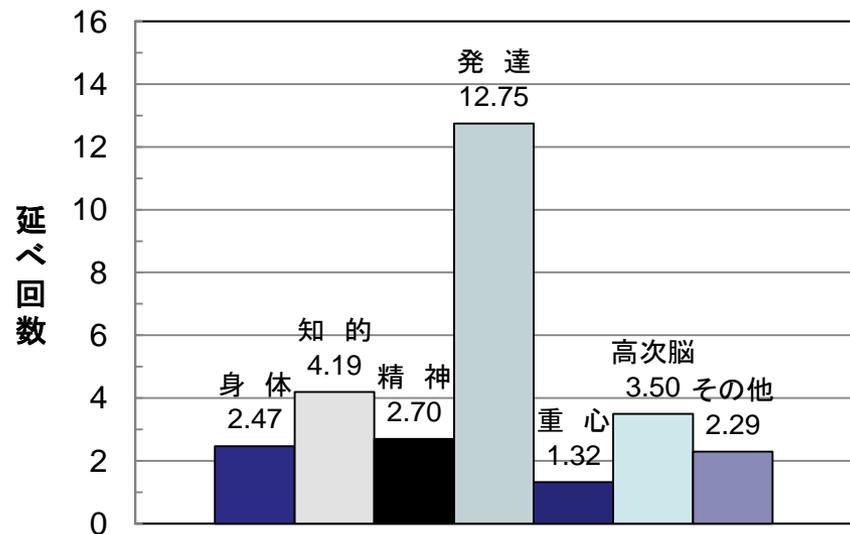
4 相談内容集計表

1/2

種別	件数					
	福祉サービスの利用等に関する支援	障がいや病状の理解に関する支援	健康・医療に関する支援	不安の解消・情緒不安定に関する支援	保育・教育に関する支援	家族関係・人間関係に関する支援
身体	334	1	98	1	0	12
知的	1,080	42	311	174	9	176
精神	379	34	241	300	0	61
発達	8	26	70	52	1	42
重心	24	0	1	1	1	0
高次脳	8	0	1	0	0	1
その他	51	24	6	0	2	1
計	1,884	127	728	528	13	293

種別	件数					
	家系・経済に関する支援	生活技術に関する支援	就労に関する支援	社会活動・余暇活動に関する支援	権利擁護に関する支援	その他
身体	5	9	5	99	0	23
知的	168	269	35	10	72	61
精神	60	46	22	67	3	13
発達	44	0	7	0	1	4
重心	1	0	0	0	0	1
高次脳	2	0	0	0	0	2
その他	3	3	18	0	1	3
計	283	327	87	176	77	107

5 月平均相談回数

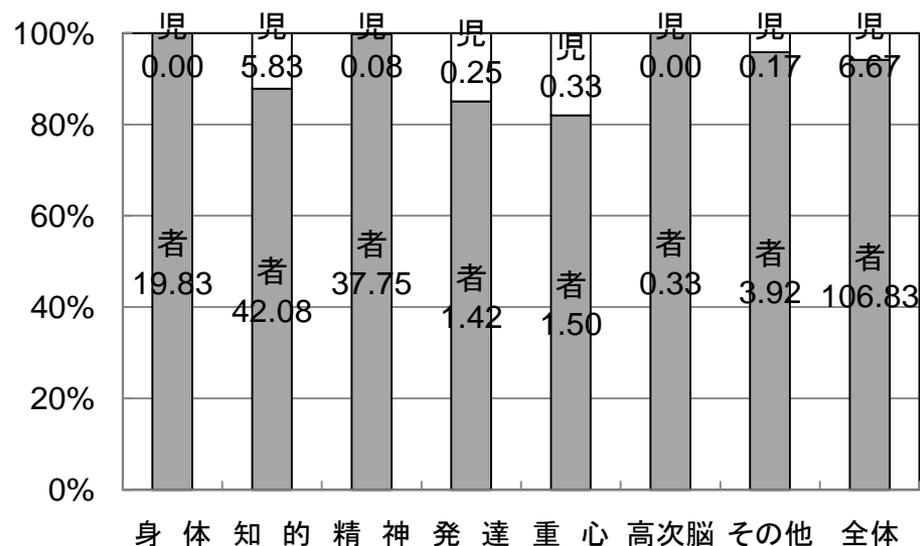


- 平均相談回数の多い順から発達障がい、知的障がい、高次脳機能障がい、精神障がいと続きます。
- 平均回数が最も多い発達障がいは12.75回です。

○ 算出式

$$\text{平均相談回数 (月単位)} = \frac{\text{延べ相談件数の合計}}{\text{相談実人数(月単位)の合計}}$$

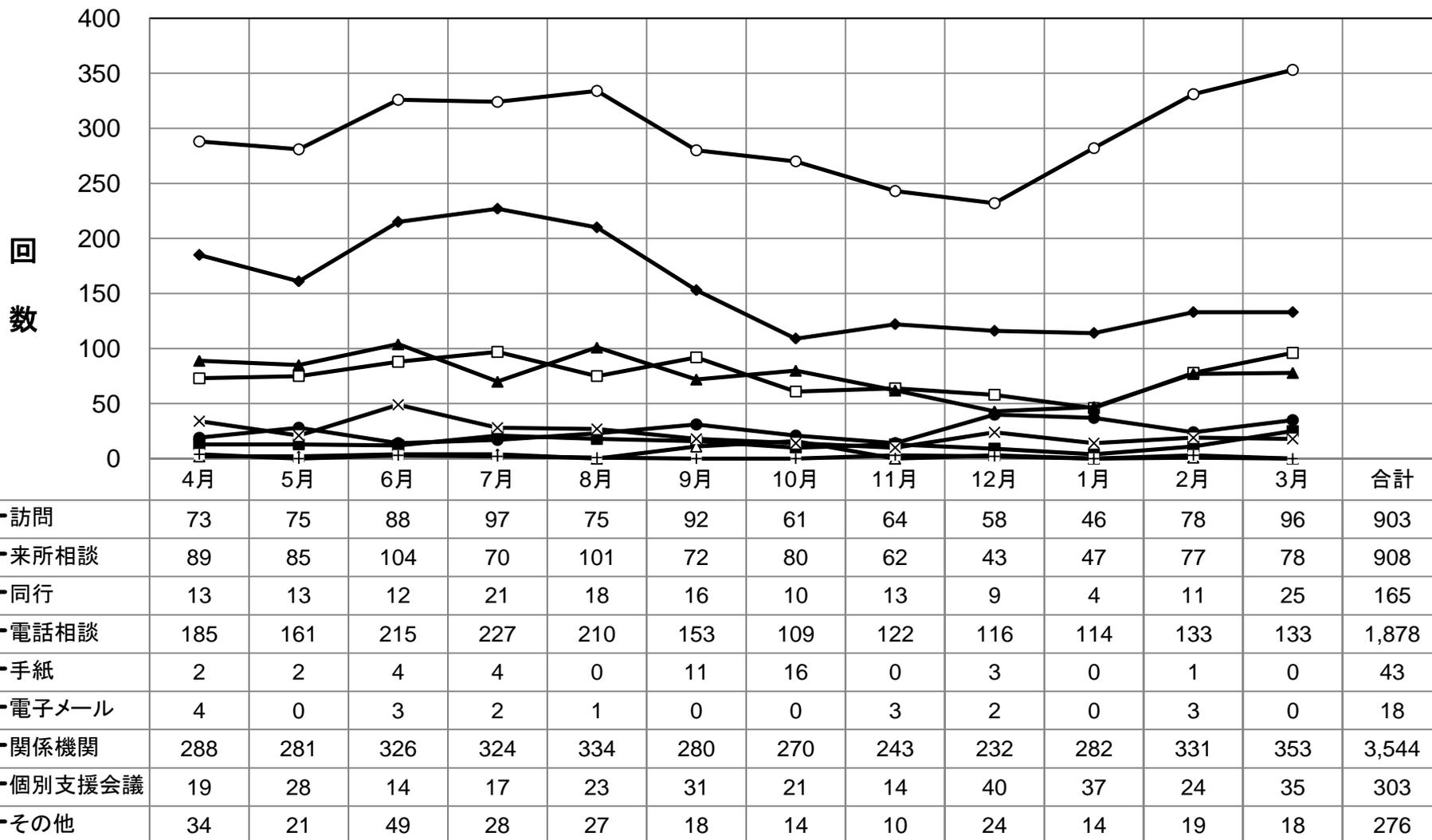
6 月平均相談実人数



- 障がい種別に応じた月平均実人数の割合です。
- 1か月単位で最も相談人数が多いのは知的障がい者で、42.08人となります。
- 身体障がい児と高次脳機能障がい児は0人/月です。

7 相談対応の実績

■対応回数は関係機関（病院・保健所・施設等）との連携、電話相談の順に多い傾向にあります。
 ■支援回数の最も多い関係機関との連携は、全体の約44%を占めています。



8 相談対応の比較

■対応を比較すると、障がい種別に関わらず、関係機関との連携と電話相談が大部分を占めています。
 ■精神障がいは他と比べ、来所相談や電話相談の割合が大きいことが特徴です。

